



その一人の幸せを念じながら

内閣府 地方分権改革推進室 参事官補佐  
**関口 龍海** Ryukai Sekiguchi  
 平成18年 4月 総務省採用  
           同 消防庁総務課  
 平成18年 8月 福井県総務部市町村課  
 平成20年 4月 総務省自治大学校研究部  
 平成20年 7月 総務省大臣官房総務課  
 平成20年 8月 同 兼 内閣総理大臣補佐官付  
 平成21年 4月 総務省自治財政局交付税課  
 平成23年 7月 千葉県防災危機管理監防災危機管理課主幹  
 平成24年 4月 同 商工労働部経済政策課主幹  
 平成25年 4月 同 総合企画部交通計画課長  
 平成27年 4月 同 総務部市町村課長  
 平成28年 4月 現職

「従門入者不是家珍(門より入る者、家珍に非ず)。」  
 自分の身近なものや、あるいは自己の内面の鮮やかなる実存は、大いなる意味に溢れているのです。禅寺出身の私は、地方分権を問われたとき、この二語を思います。

### その一人の幸せを念じながら

10年。不肖ながら私は、国の持つ権限、規制の綻びから見える人々の生活に関わり、この日本のどこかにいる、誰か一人の役に立つことを念じて働く日々に、10年前になりたかった自分に近づいてきた気がしています。次の10年も、私は田舎者のまま、その一人のための仕事を続けたい。

もしもあなたが総務省に入ったとき、10年後の自分はどんな姿か。

その豊かな可能性を信じて、私のささやかな10年目の記録が、僅かでも皆さんのご参考となれば幸いです。



我が家の子育て!

### 私は田舎者だ。東京はまぶしくてかなわん。

そんなことを、社会人になって10年経った今でも感じられるのは、その思いを必要とする仕事に関わっているからだと思います。

霞ヶ関に居ながらにして、なお垢抜けることのない、素朴で忘れがたい郷土愛は、郷里から持ち込んだものだけではなく、東京一地方の勤務を繰り返しながら、寧ろ日本のあちこちを故郷のように思うことを、一層強くしています。そして、現在携わっている地方分権も、まさにその一つです。

### 一人の病気の子どものための地方分権

地方分権の仕事は、地域の現場での素朴な気付きと人々の生活への想像から始まります。

あなたには、とある田舎に友人がいて、小さな子どもを育てつつ、少し離れた市街地で働いているとします。帰りが遅くなることもありますし、子どもが急な病気でも、会社を休めないこともあるでしょう。

一方で、そのような地域では、遅い時間まで、または、病気の子どもを預かってくれるサービスを、なかなか実施しがたい現状があります。理由は色々ですが、保育士さんが不足していて、サービスに求められる国一律の要件を満たせないためです。

しかし、それだと、その友人の家庭は行き詰ってしまいます。どうしたら彼女を支えてあげられるか。あなたならどうしますか?

ほんの一例ですが、お母さんが帰ってくるまで、小学生のお兄ちゃん達と一緒に、みんなで仲良く遊べる場所を作る。子どもが風邪気味のときは、小児科のある医院で、経験豊富な看護師さんに看てもらおう。私たちはそんなことを考えています。

雪降る帰り道、彼女が安心して子どものお迎えに行けるように、その子がいつか、お母さんが働きながら、自分を一生懸命育ててくれたことを理解できるように。私たちは、実際の課題に触れた意志ある市町村の方々と共に、地域ならではの工夫によって課題を解決することを目指しています。

### 問如何是地方分権。

「聞声悟道見色明心(声を聞いて道を悟り、色を見て心を明らかにする)。」

あなたが社会をより良くしようと志す時に、遠く広大なものを見る必要は全くありません。大切なことは、極度に理念化した社会正義や、一般性ある法理を追求することではないのです。役人の仕事に勿論その手続きはありますが、最も大切なことは、そこにある小さな何かを自分の眼で見つけ、小さくても何かを行うことです。

また、

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 参事官補佐  
**中野 芳崇** Yoshitaka Nakano  
 平成18年 4月 総務省採用  
           同 行政管理局企画調整課  
 平成19年 11月 同 行政管理局企画調整課行政手続・制度調査室  
 平成20年 7月 同 情報流通行政局情報流通振興課制度係長  
 平成22年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部  
           消費者行政課企画係長  
 平成23年 9月 英国留学(ロンドン大学(UCL)、ヨーク大学)  
 平成25年 8月 内閣官房内閣総務官室国会専門官  
 平成27年 10月 現職



オールジャパンで課題解決に挑戦!  
 ~為すべきことを為し、なりたい自分になる~

### 地方創生の司令塔組織の司令塔として

「この町を救う最後のチャンスです」。高齢化率5割以上、年間の人口減少率3%以上の四国の中山間地で現地の方から聞いた言葉です。

地域の名産品の海外販路拡大、企業や政府関係機関の地方移転、地方移住の推進、地域の実情に応じた働き方改革、地方大学の振興や若者雇用の創出、中山間地における生活の拠点作り...書き切れませんが、民間企業、自治体、ほぼ全省庁からの職員を擁する政府全体の地方創生の司令塔である「まち・ひと・しごと創生本部事務局」において、事務局全体の司令塔役として働いています。

社会の動向への情報感度を高め、各プロジェクトの進行管理を行い、幹部の意思決定をサポートし、政府全体が一体的に地方創生に取り組めるようにする。総理や大臣等の指示に基づき、民間、地方、各省庁等の関係者と調整し、政策の方向性を示す。一つのミスが多くのプロジェクトに影響を与えかねないだけに自分が試される日々ですが、充実しています。

### 就職活動時の想い ~そして総務省で、英国で、国会で~

少子高齢化、経済の停滞、財政赤字、政府への不信...日本の課題解決に少しでも貢献したいと考え、国・地方の基本的制度や情報通信といっ

た分野横断的であり、長らく国民生活を支える政策分野を持つ総務省の門を叩いたのも早10年以上前。

入省後、国の行政組織全体の戦略的人材配置、行政不服審査法の抜本改正、ICTによる医療・教育・観光等の課題解決、インターネットの違法・有害情報対策等、多岐にわたり、やりがいのある仕事に携わり、特定の分野に限られないものの見方や改革マインドを培うことができたと考えています。また、英国の大学院では日本を相対的に見詰め、国会議事堂内の執務室では総理を直接的にお支えするという貴重な経験もさせていただきました。

あらゆる政策を総動員して地方創生に取り組むに当たって、これまでの経験の全てが有機的につながり自らの礎となっていますし、バックグラウンドが多様な職員の中で司令塔として試される日々は己を強くし、総務省で新たな政策を企画・立案し、実現する際に活きると思っています。

### 成らぬは人の為さぬなりけり

「できるかできないかではなく、やるかやらないかだ」。総務省で担当していたプロジェクトが到底実現困難な状況に追い込まれた時に上司から言われた言葉です。もちろん現実には時に冷酷ですし、精神論を振りかざすつもりもありません。ただ、たとえ困難であっても、困っている人を助け、世の中を良くするために解決が必要な喫

緊の課題を眼前にし、思考停止している暇はありません。また、何とかしたい一心で同志とともに突破口を見つけ、全力を尽くした後の達成感は格別であり、自らの成長にもつながると考えています。気付けば、この言葉は自分が事に当たる際の哲学の一つになっています。

そして、地方創生に限らず、総理官邸や東日本大震災からの復興、成長戦略、行政改革、情報通信の司令塔等で、オールジャパンで取り組むべき課題解決に向けて奮闘する総務省職員がいます。

やる気さえあれば何でもできると言っても過言ではないこの無限のフィールドで、日本を、世界を少しでも良くしたいという良い意味で「青臭い」想いを持ち続け、共に挑戦できることを楽しみにしています。



英国留学時代にキャンパスで